

募集 中

詳しく述べは龍雲寺まで

お早めにお申し込み下さい。

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

一月二十六日(月)・二月 九日(月)

三月二十三日(月)・四月二十七日(月)

五月二十九日(金)・六月二十三日(火)

男性・女性どちらでも可

会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。

○他にも龍雲寺では開碁の会・茶道部・法声会

(長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かつばれ・

ヨーガ・ピラティス等があります。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)

毎週日曜日 一時~四時

(但し、七月、八月はお休み)

納経料は 一巻500円(龍雲寺に納経)

会費 無料

坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会(申込不要)

毎週日曜日 朝六時半~八時半

来られない方は、お写経をお渡しいたしますのでご自宅でゆつくりお写経をどうぞ。

イス席もご用意しています。

臨濟宗妙心寺派 龍雲寺 花園会報

監修／細川晋輔 編集／細川要子
TEL 03-3422-10238
FAX 03-3418-19863

野澤龍雲寺 検索

百花春至つて誰が為にか開く

閑栖住職 細川景一

新しい年を迎えるにあたって、皆様いかがお過ごですか。今

年も宜しくお願い申し上げます。新命住職が晋

山して、一年余りが過ぎました。もう少し、暇が

出来るかと思つていましたが、忙しく過ごしてい

る昨今です。三月で花園大学の方も終わります。

今年はのんびり境内の草取りでも出来るかなと樂

しみにしています。

さて、「碧巖録」という書物に、「百花春至つて誰

が為にか開く」という言葉があります。寒風吹き

すさぶ冬の時節は、見渡す限り枯野原でも、ひと

たび新年を迎える春風が吹けば、何処からともなく

次から次へと青い芽を出し、たちまち緑をつけて、

一齊に花を咲かせます。

境内でも梅、桃、辛夷、桜、牡丹、五月、つつじ等が、まさに百花撩乱と咲き乱れます。花の便りに浮かれて酒宴を設け、乱痴気騒ぎの「花見」だけでは花に申し訳ない。この百花の姿が私達に大切なことを教えています。

江戸の漢学者、佐藤一斉の言葉にあります。

月を見るは、清氣を観るなり、円欠晴翳の間に在らず。花を見るは、生意を見るなり、紅紫香臭の外に存す。

月を觀るのは清らかな氣を觀るのであって、月が

大般若会

平成二十七年一月七日(水)

於・龍雲寺本堂

午前十一時 () 御詠歌奉詠
午後十一時 () 法要 後()昼食会

※お申し込み不要、会費は一家族二千円
今年も別便のご案内は出しません。皆さん
お誘いの上一人でも多くご参加下さい。

★ぜひ、御来場ください

編集後記

東京教区御詠歌大会・青鳳会十周年記念公演

日時 平成二十七年三月十日(火)

開演 午後一時より(開場十二時半)

場所 成城ホール

会場世田谷区成城六一一三

入場 無料 予約不要

乙未元旦



○新年を迎える皆様いかが、お過ごですか?年令のせいか昨年の一年は、アツという間に過ぎました。我だけでしょうか、この思いは、○昨年の暦の住職が表紙の羊を描きました。住職が描いてサインは私の名前になると笑いながら言うので嫌だと言いました!○台湾三十三观音巡礼は方丈さんます。それを記念いたしまして、臨濟宗妙心寺派東京教区の御詠歌大会で特別に公演をおこないます。「青鳳会」は三十名ほどの全国の妙心寺派若手僧侶の集まりで、定期的に練習をおこなつており、その御詠歌は素晴らしいものがあります。たくさんの坊さんがステージで御詠歌を奉詠いたしますし、色々な趣向もあるようです。また、同時に東京教区の御詠歌支部の発表もあります。もちろん、龍雲寺支部も奉詠いたします。方丈さん達が寄進させて頂いた観音様をさしあげます。成城ホールという素晴らしい会場で日々研鑽を積まれた御詠歌を皆さんにお聞き頂きたいと存じます。もちろん、龍雲寺支部も奉詠いたします。お一人でもどうぞご参加下さい。五山送り入場も無料ですので、皆さんも是非お誘い合わせの上、ご来場ください。

わせの上、ご来場ください。○三月十日成城ホールで十年前に方丈さんが作った若い和尚様方の御詠歌を奉詠いたしました。○三月は第八次四国八十八ヶ所巡拝が結願に。今まで二百三十余名の方々を巡礼出来て幸福でした。○三月は第八次四国八十八ヶ所巡拝が結願に。今まで三百余名の方々を巡礼出来て幸福でした。○三月十日成城ホールで十年前に方丈さんが作った若い和尚様方の御詠歌を奉詠いたしました。○三月は第八次四国八十八ヶ所巡拝が結願に。今まで三百余名の方々を引率、結願になりました。○三月十日成城ホールで一年、松島で開催された全国奉詠震災復興祈念大会で一昨年に続き龍雲寺はアンコールに選ばれました。○今年は四国巡拝と西国巡礼を一番札所より始めます。お一人でもどうぞご参加下さい。五山送り火も、お早めにお申し込み下さい。○山内一同おかげさまで元気にしています。

要子

台湾三十三観音霊場巡拝を終えて（全二回）

長福寺 後 藤 實 堂

この度、台湾巡拝【全三十五ヶ寺・客番二ヶ寺含】を龍雲寺様のおかげをもちまして無事、皆さんで結願する事が出来ました。

有志寺院様方の支援により慈悲深いお顔の「孝養観音像」を本尊と祀り一九九七年に開創されました。その有志名簿には細川景一先住職の名も記載されておりました。

【孝養こうよう】とは「親に孝行し尽くす・ご先祖様への供養」という意味があります。

まず台湾には同じ臨済宗のお寺でも日本と趣の違う立派な本堂が多い事に驚きました。その堂内で般若心経をお唱えし、奥さまと有志にて「みほとけは」を奉詠したところその響きに寺院の方々はとても感動を受けられた様子で掌を合わせていました。

各御寺院では丁寧な御接待を頂き、国や人種を超えた（仏の縁のおかげ）と本当に有難い事だと感じました。

北京語で感謝の言葉は「謝謝」ですが、仏に從事する方は穏やかな顔で掌を合わせ阿弥陀仏（オミトフ）と言われます。近年、台湾では「仏教を学ぶ事で良い人格が育つ」と言われており、学ぶ人が増えているそうです。

今回の巡拝、台湾の仏教文化に触れた事で、日本人が忘れつつあるおかげさまという感謝の心【孝養のこころ】を再確認しなければならないと気付かれました。



ご挨拶

新命住職 細川晋輔

平成二十七年の新春です。皆様におかれましては、それぞれの想いで新年を迎えていらっしゃることと存じます。ひつじ年の私にとって、今年は年男ですので、恥ずかしながら「龍雲寺の宝曆」にも、羊の絵を描かせて頂きました。

昨年を思い返せば、晋山式を終えた安心感からか、まさに光陰矢の如くに過ぎていきました。龍雲寺でも、母にとつて初めての試みであった台湾巡礼を無事に終えることができましたし、参加くださった方にも喜んで頂けました。また、御詠歌の龍雲寺支部は、二年連続で全国奉詠大会のアンコールを受けられたとか。これは、会員様たちの日頃の練習の成果であり、本当に素晴らしいと思います。

話は変わりますが、今年の四月から、今まで休止しておりました「龍雲寺法話会」を再開することとなりました。この法話会は、数年前まで、祖父である故・松原泰道師が三十年続けていたものでした。詳しいことは、春彼岸の時にお知らせいたします。ぜひ、多くの皆様に足を運んで頂き、釈尊の教えに触れて頂ければ幸いです。法話と言えば、私も今年の四月に、布教師として全国の妙心

寺派の寺院を巡教させて頂きます。巡教とは、お

彼岸に龍雲寺に来られる布教師様のように、約二週間いろいろなお寺で妙心寺派・管長猊下の名代として話をさせて頂くことです。長い間お寺を留守にすることになりますが、父に「今年限り」という条件で許してもらいました。一回きりの貴重な機会ですので、精進したいと思っています。祖父も喜んでくれるはずです。

正月とは、今までのことを反省して、一度自分を見つめなおし、自分の原点から逸れないように、自分を「修正する月」です。私も、たくさんの人間に支えられた晋山式で、山門をくぐった時の想いを忘れずに、それに立ち返つて、日々過ごしていきたいです。今年もどうぞ宜しくお願いします。

大般若会とは？

唐の玄奘三蔵法師がインドから持ちかえり四年を費やして翻訳された最大の教典「大般若波羅蜜多經」六百巻を転読、依持する法要です。

仏前には、悪心を取り除く働きのあるといわれる「十六善神」の尊像を掛け人間としての幸福と世界平和を祈願する法要で、中國では長い歴史の中で鎮護国家と除災招福を願う重要な祈祷会とされてきました。日本では文武天皇の大宝三年（七〇三）に行われた記録が「続日本紀」にあります。新しい年を迎えて今年一年の息災を祈るうではありませんか。

募集中

詳しくは龍雲寺まで

お早めにお申し込み下さい。

◆第九次西国三十三観音巡礼

四月六日(月)～九日(木)
一番札所よりスタート。
春秋二回。二年間で結願

春秋二回。二年間で結願

◆第十次西国三十三観音巡礼

五月十八日(土)～二十一日(月)

一番札所よりスタート。

春秋二回。二年間で結願

※どちらも難所はタクシー・ロープウェイ等でお寺に行きます。

◆第十次妙心寺と五山送り火の旅

八月十五日(土)～十七日(月)

ご本山妙心寺のお精靈送りの法要。

お写経・陶器、お数珠作り。二名一室、一名一室で連泊。

会館の屋上から送り火を拝め、疲れないように、お昼寝タイムを。

川床や送り火の精進料理をお楽しみ頂けます。

直接お寺にお問い合わせ下さい。資料をお渡しします。

※定員になり次第〆切りに。

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

聞修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

A（一五〇×一五〇）永代使用料一二五万円

B（一五〇×一四〇）永代使用料一一四万円

A Bとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外柵工事費を含みます。

このままで直ちに納骨できます。右記の額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

◆納骨堂（お遺骨一時預り 無料）

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ちき先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようにという考え方で十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆NPO 東日本大震災復興支援 『浜ばっぱのぞうきん』

※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあります。

「知 足」

閑栖住職 細川景一

暑さ寒さも彼岸までといわれる様に、寒さもや
わらぎ暮らしよい日が続きます。皆様方にはご機
嫌よくお暮らしの事と思います。小柄にとて暖
かくなると淋しい思いをする事が一つあります。

それは十二月過ぎより二月一ぱいでようか、境
内の庭に傷んだ果物をおいておくと、ヒヨドリ、ム
クドリ、メジロ、ホホジロ、オナガ等々の鳥が寄つ
て来ます。ここ数年は野生化したインコウまでも群
れをなして寄つて来ます。その様子を見るのが樂し
みですが、暖かくなると他に餌があるのでしょうか、
もう寄つて来ません。原色の鳥が飛び交う光景は日
本の光景とは思えません。亜熱帯の地方に来たよう
な思いがします。

この状況も温暖化の現象の一つでようか。温暖
化の原因の一つに炭酸ガスの温室効果があると云わ
れています。その為、工場や自動車から排出する炭
酸ガスなどの削減が叫ばれています。企業などによ
る低公害のエネルギーの開発、ガス等の回収等、い
いろいろな方法が検討されています。これらの課題は
いざれ解決されると思われます。しかし一番問題な
のは私達の身近な生活の中で使つていてる多大なエネ
ルギーの削減です。それは一度覚えたこの快適な生
活のレベルを少し落とすことです。一つ満たせばま
た一つ、次から次へと欲望を募らせるのではなく、
この辺で「足を知る」生活に満足する事です。

禪語の一つに「の衣するに尽くる無し、數樹の食
するに余り有り」一つの小さな池のはすの葉さえ在
れば着るものはそれで十分、他に何もない。数
本の松さえあれば食べるものはそれで十分、他に何
もいらない」とあります。勿論、はすの葉だけで着
るものになるわけがありません。松の実だけで食べ
るものになるわけがありません。家は雨の漏らぬ程、
食は飢えぬ程、衣は身を包んで人に不快感を与える程、
お金は何とか生活できる程、それで充分、足る
事を知れというわけです。

「知足」の言葉重い言葉です。

ご案内

◆野沢龍雲寺 てらこやこども論語塾

この度、陽明学の大家である安岡正篤先生の孫
にあたる安岡定子先生をお招きして、論語塾を開
催致します。幼稚園児、小学生から大人まで年齢
を問わずにご参加頂けます。参加者みんなで声に
出して「論語」を素読し、先生が優しく解説して
くださいます。

安岡定子先生は現在、「銀座寺子屋こども論語塾」、
「湯島聖堂こども論語塾」等、全国各地で定期講座
は二十三に及び、幼い子どもたちやその保護者に
「論語」を講義している大人気の先生です。その
ような方に、龍雲寺で講演して頂けることは大変幸
せです。

江戸時代の「寺子屋」のように、お寺を利用し
てお子様に論語に触れていただける機会になれば
と考えています。六月よりは、毎月の第一日曜日
の午前十時から、龍雲寺において「論語の素読会」
も開催します。

是非今回の講演に来て頂き、安岡先生の論語をご
体験ください。

【日 時】三月二十九日(日)午後三時から四時まで
【場 所】龍雲寺本堂
【講 師】安岡定子先生

【参加費】大人 二千円 小中学生 五百円
※未就学生は無料

※当日に「子や孫に読み聞かせたい論語」(幻冬
舎・千円)をご購入頂きます。

申込み・お問い合わせは 龍雲寺まで

詳しく述べるところまで
お早めにお申し込み下さい。

◆第四次西国三十三観音巡礼

春秋二回。二年間で結願 四月四日〆切り
五月十八日(月)~二十一日(木)

一番札所よりスタート。

春秋二回。二年間で結願 三月十日〆切り
一番札所よりスタート。

募集 中

詳しく述べるところまで
お早めにお申し込み下さい。

◆第九次西国三十三観音巡礼

春秋二回。二年間で結願 四月六日(月)~九日(木)

一番札所よりスタート。

春秋二回。二年間で結願 三月十日〆切り
一番札所よりスタート。

◆第十次妙心寺と五山送り火の旅

春秋二回。二年間で結願 八月十五日(土)~十七日(月)

ご本山妙心寺のお精靈送りの法要。

お写経・陶器、お数珠作り。三名一室、二名一室、
一日一室で連泊。

会館の屋上から送り火を拝め、疲れないように、
お昼寝タイムを。

川床や送り火の精進料理をお楽しみ頂けます。

直接お寺にお問い合わせ下さい。資料をお渡しし
ます。お一人で参加でも大丈夫です。

※定員になり次第〆切りに。

◆龍雲寺ダンマトーキ(法話会)

共催: 東京禅セレタ

松原泰道師が亡くなられてから、お休みしてお
りました。「法話会」を復活することになりました。
「トーク(話)」となりました。記念すべき第一回目
は、大本山妙心寺派宗務総長・栗原正雄師がお話
下さいます。閑栖の景一和尚が宗務総長時代に、
教学部長としてご尽力頂いた広島県福山市鞆町の
和尚様で、妙心寺派の布教師でもあります。前
座には私(晋輔)も少しの時間ですが話をさせて頂
きます。この法話会は、要予約となつております。
彼岸会にお越し下さる方はその時に、それ以外の方
は、第一回目の法話会から受付させていただきま
すので、こちらも宜しくお願ひ申し上げます。

【日 時】四月二十五日(土) 午後二時半から四
時半まで(開場 午後二時)

【場 所】龍雲寺本堂

【講 師】妙心寺派宗務総長 栗原正雄師

【演 題】「無常をたのしむ」

【参加費】無料

※要予約(東京禅センター)
申込みは、お名前・お電話番号・人数を明記の
上、東京禅センターまでFAXでいただけると助
かります。

★東京禅センター TEL〇三(五七七九)三八〇〇
FAX〇三(五七七九)三八〇〇

◆普段着のお茶会

【日 時】ライツアップ同日 午後三時から六時まで
【場 所】龍雲寺茶室・南薰亭

【料 金】百円(抹茶とお菓子付き)
※楽な格好で、お気軽にお越し下さい。



◆野沢龍雲寺・桜ライトアップ

好評を頂きました、「龍雲寺桜ライトアップ」

ブ」を今年も開催させ

て頂きます。去年と同
じように、照明デザイナー

のSPACE CALDO・服
部高久氏にお願いして、

カラーキネティクス・
ジャパン株式会社のご

協力のもと、今年は一
日増やして行います。

また、茶室・南薰亭に
おきまして、午後三時
から龍雲寺茶道部によ
る「普段着のお茶会」

もござります。気楽な格好でお楽しみ下さい。是
非、昼の桜は抹茶とともに、夜の桜はライトとと
もにご覧下され幸いです。

ライトアップ

【日 時】四月三日(金)~五日(日)午後六時から
九時まで

【場 所】龍雲寺境内

【料 金】無料

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

聞修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しま
した。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂き
ます。

A(一五〇×一五〇) 永代使用料一二五万円
B(一五〇×一四〇) 永代使用料一四万円

A Bとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外構工事費を
含みます。

このまま直ちに納骨できます。右記の額を直
接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲
寺まで。

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落
ち着き先がわからぬ方たちが、ご不幸があつて
慌てて墓地を買わぬないように、落ち着いて考
えの時間を持つて下さるようについて考えて十数年
前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。

いつもお参りの方がいらして下さい。

◆NPO 東日本大震災復興支援

『浜ばっぱのぞうきん』
※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあり
ます。

一組四〇〇円

行事予定

夏休み

○龍雲寺てらこやの御案内
日時】七月三十一日(金)

午後一時～五時まで
七月三十一日(金)～八月二日(日)
盆踊り大会(於駐車場)

八月十五日(土)～十七日(月)
第十次妙心寺と五山の送り火の旅

九月二十三日(水)秋季彼岸会

九月二十八日(月)～三十日(水)

全国奉詠大会(於札幌)

十月十七日(土)第十二回天満敦子
バイオリンコンサート

十月月中旬 龍雲寺子ども会餅つき大会

十二月三十一日(木)除夜の鐘

一月七日(木)大般若会

平成二十七年七月十七日(金)
於・龍雲寺本堂

十一時～御詠歌奉詠
十一時三十分～法話
正午～法要

※生姜ご飯とお漬物をご用意しています。

皆様おそいでお参り下さい。
申し込み不要。

平成二十七年七月二十八日(火)

午前九時～午前十時半
午前九時～午前十時半
午前九時～午前十時半
午前九時～午前十時半

※お子さんは午後八時まで。二十八日は夜です。保護者同伴でお願いします。

○練習に参加したお子さんは、やぐらの上で踊れます。

○小学生のプールのあるお子さんは、プールの支度をして来て下さい。

○子ども用ゆかたの貸し出しもあります。

○生姜ご飯とお漬物をご用意しています。

皆様おそいでお参り下さい。
申し込み不要。

編集後記

○皆様、気候が不順ですが、如何お過ごですか?

龍雲寺も、棚経、お施餓鬼会の準備が始まっています。七夕飾りを皆で作ったり、子ども会や大人の盆踊りの練習があり沢山の方々が来られます。盆踊りは昔の健康体操のようです。一小節の振りを覚えれば、繰り返しでするので見ていてより踊った方が楽しむ元気になります。ぜひ今年は、挑戦してみて下さい。

○ご本山妙心寺のお精靈送り、五山の送り火の旅は宿泊先の花園会館屋上から椅子に座つて送り火を拝めます。毎年涼しい部屋で、お写経や陶器、匂い袋作りの講習会をしています。お子さんの夏休みの宿題も出来ます。川床や送り火の特別な精進料理等美味しく楽しい企画です。ぜひ、ご参加下さい。

○第九次四国八十八ヶ所巡拝は二回目が始まります。○方丈さんは西国三十三ヶ所観音巡礼をお参りしたいそうですので、第四次西国三十三ヶ所観音巡礼を十月に始める予定です。○方丈さんは三月末で花園大学学長を辞め龍雲寺にいます。京都に週に三回日帰りしていたのが暇になり、最近は、机に向かって運動不足気味です。立つたり座つたりの離着陸の時に膝が痛いそうで治療中です。早く良くなって欲しいです。子ども達も、いろいろ誘い出してくれます。方丈さんは鼻水、くしゃみが止まらず薬を服用中で晚酌の大好きなビールを控えています。○書生さんの伊東さんは、龍雲寺に七年居てくれます。四国の歩き遍路を三回しています。私は皆様を引率して九回西国巡拝していますが、一人で歩き遍路は、途中までです。伊東さんの歩き遍路は大変な事と思います。日焼けしてスマートになった伊東さんに声を掛けて下さい。○薔薇園は磯貝さんが丹精込めて薔薇園のお世話をしています。今年も沢山の方々が見に来て下さいました。○山内一同おかげさまで元気にしております。犬のハクちゃん、猫の響ちゃん、杏ちゃん、凜ちゃん、桜ちゃんも元気です。○お施餓鬼会には生姜ご飯やお漬け物をご用意してお待ちしています。皆様もお元気で。要子

臨済宗妙心寺派 龍雲寺 花園会報 二〇一五年 お盆号

監修／細川 晋輔 編集／細川 要子
TEL 03-3342-1023 FAX 03-3341-9863

野澤龍雲寺 検索

百三十五年以上龍雲寺で続く三峰権名講も、たくさんの方々にご参加を頂きおかげさまで無事につとめあげることができました。そして、いよいよ暑い夏がやつて来ます。二ヶ月間の歩き遍路を終えた書生の伊東さんも、日に焼けて身体も引き締まって無事に帰つてきてくれました。盆踊りの準備やお施餓鬼の準備など、いよいよ寺内はバタバタし始めています。

お盆は正しくは「盂蘭盆」と言います。これは古代インドの言葉「ウランバーナ」を漢字に音写したもののですので、「盂蘭盆」という漢字自体に意味はありません。例えばフランスのパリを音写して「巴里」とするように。「ウランバーナ」は「逆さ吊り」という意味です。そして、昔話の「カチカチ山」のタヌキのように、棒に手足を結ばれて、足を上にして頭を下にして逆さ吊りされている苦しみを指しています。つまり、真理・道理から逆しまになつて、苦しいということになります。

物言わぬ 位牌を拭いて 声をきく

妙心寺の基をつくられた花園法皇様が人生の苦難を詠んだ歌です。その意味は、「雲高くそびえる山の峰から峰に掛け渡した橋を渡るのは大変危ないが、それ以上に危険なのがうきよ(人生)を渡る路である」というものです。この歌には、人生は生まれた時から苦しみがはじまるという仏教の教えが色濃く表されています。

私事ですが、今年は祖父と祖母の七回忌でした。そのお墓参りを親族でして、叔母がネジバナを墓前にお供えしていました。聞けば祖母が大好きな花だったそううで、よく車を停めさせて中央分離帯までネジバナを取りにいっていたとか。お花をみて故人を偲び、そしてその方から教わった色々なことを思い出す。これこそ、危険な人生を歩んでいくうえで、苦しみを和らげるための一番いい道なのかもしれません。

雲をふむ 峰のかけはしそれよりも うきよをわたる
みちぞあやうき

「四国を歩いて」

伊 東 正 智

四月の半ばから約二ヶ月間のお休みを頂いて断食道場と四度目のお遍路さんになるのですが理由はともかく、所謂お四国病といわれるところかもしません。お四国病というと何のことかと思われる方もいるかもしれません。お四国病と云ふことを指すようです。実際に私も歩き遍路として

三度目になるので立派なお四国病です。お遍路さんといつてもそのあり方は様々です。歩き、自転車、自動車、電車、バス等々。全てを通して回る人、区切って回る人。遍路道を行く人、舗装道を行く人。百人いれば百通りの回り方があると言われています。龍雲寺でも奥さん引率のもと毎年、四国、西国、坂東、秩父等々お参りに行っています。私も何度も皆様と同行させて頂いて皆様と楽しくお参りするのも一つの形ですが、歩き遍路はまたそれとは違った趣があります。歩きのお遍路は一人で歩くことがほとんどで天候やその歩く行程から大変だと声を掛けて頂くことが多く、確かに肉体的につらかったりしますが、お接待や遍路道を通して感じる自然には言葉にならないものがありました。その感じるところ人によつて様々なので一様ではないのですが、そこでの非日常の出来事がお

遍路さんを四国に引きつけているのだと思います。こうして無事、結願出来ましたこと誠にありがとうございます。今回、快くお遍路に送り出して頂いた方丈さん、奥さん、新命さんをはじめ皆様方に感謝の気持ちを述べさせて頂くと共にご報告させていただきます。ありがとうございました。

住職（晋輔）よりのご報告

- 今年の春より大本山妙心寺より、川崎市にある臨済宗妙心寺派・薬師院の兼務住職を拝命しました。薬師院の西ご住職が遷化（逝去）される際、閑栖和尚（父）に後事を託されました。そのご意志に応えるためにも、しかるべきご住職が薬師院に入られるまで、お寺をしつかり護持していく所存です。閑栖和尚と協力しながら龍雲寺の法務を行つて参りますので、何卒ご理解のほどをお願い申し上げます。
- 「龍雲寺会報」を見やすくしました。「字が小さすぎる」との声があり、自分でも小さすぎると思つていませんでしたので、今号より大きくしてみました。
- AEDを設置しました。使うような事態が起こらないことを祈つていますが、念のため玄関に設置いたしました。

募集中

詳しく述べる

お早めにお申し込み下さい。

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

七月二十一日(火)・八月休み

九月十四日(月)・十月十三日(火)

十一月十七日(火)・十二月二十五日(金)

毎週木曜日二回自主練習

男性・女性どちらでも可

会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具もあり、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。

○他にも龍雲寺では団碁の会・茶道部・法声会（長唄・三味線）・獅子舞・子ども会・かつばれ・ヨーガ等があります。

◆早朝洗心坐禅会（申込不要）

毎週日曜日 朝六時半～八時半（六時開門）

会費 無料

坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会（申込不要）

毎月第二土曜日 一時～四時

（但し、七月、八月はお休み）

納経料は一巻五〇〇円（龍雲寺に納経）
来られない方は、お写経をお渡しいたしますのでご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。

イス席もご用意しています。

◆第十次妙心寺と五山送り火の旅

八月十五日(土)～十七日(月)

ご本山妙心寺のお精靈送りの法要。

お写経・陶器、お数珠作り。三名一室、二名

一室、一名一室で連泊。

会館の屋上から送り火を拝め、疲れないよう

に、お昼寝タイムを。

川床や送り火の精進料理をお楽しみ頂けます。

直接お寺にお問い合わせ下さい。資料をお渡しします。お一人で参加でも大丈夫です。

※定員になり次第〆切りになります。

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

A（一五〇×一五〇）永代使用料一二五万円
B（一五〇×一四〇）永代使用料一一四万円

A Bとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外構工事費を含みます。

◆納骨堂（お遺骨一時預り 無料）

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考へる時間を持つて下さるようにという考え方で十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆龍雲寺でらこや子ども論語塾

全国各地で定例講座をされている安岡定子先生をお招きしての論語の素読教室です。終わつてからの遊びも時間も大好評です。

【日 時】九月二十六日(土) 午後二時半から

四時半まで（開場 午後二時）

【場 所】龍雲寺本堂

【講 師】妙心寺塔頭 退藏院 松山大耕師

【参加費】大人千円、子ども五百円

申し込み、お問い合わせはお寺まで

◆龍雲寺ダレマトーク（法話会）

【日 時】九月二十六日(土) 午後二時半から

四時半まで（開場 午後二時）

【場 所】龍雲寺本堂

【講 師】妙心寺塔頭 退藏院 松山大耕師

【参加費】無料

※要予約（東京禅センター）

申込みは、お名前・お電話番号・人数を明記の上、東京禅センターまでFAXでいただけると助かります。

★東京禅センター TEL 03(5779)3800
FAX 03(5779)3801

【日 時】七月二十日(月・祝) 午後二時から

【場 所】龍雲寺本堂

【講 師】正眼僧堂師家・山川宗玄老師

正眼短期大学副学長 横山紘一先生

【参加費】千円 予約不要

行事予定

九月二十三日(水) 秋季彼岸会

九月二十九日(火)～十月一日(木)

十月十七日(土) 第十二回 天満敦子

十月十八日(日) バイオリンコンサート

十月十九日(月)～十月二十二日(木)

十二月中旬 第四回西国観音巡礼

十二月三十一日(木) 除夜の鐘

一月七日(木) 大般若会

秋季彼岸会法要

平成二十七年九月二十三日(水・祝)

於・龍雲寺本堂

正午

(御詠歌奉詠)

午後十二時四十五分

(法話(本派布教師))

午後一時

三十分(法要)

※おはぎとお漬物を用意しています。

どうぞお参り下さい。申込不要。

◆第十二回 天満敦子ヴァイオリン・コンサート

日時 十月十七日(土) 午後三時

会費 三千五百円(当日集金)

会場 龍雲寺本堂(椅子席)

三時から整理券配布

お申し込みはFAX/電話・お葉書で。定員になり次第締め切ります。お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司をご用意しております。



編集後記

皆様少しずつ秋の気配を感じられて来ましたが、いかがお過ごしですか? ○龍雲寺盆踊りも5千人以上来られて盛況でした。○急に涼しくなって猛暑のお疲れが出ません様にと思います。○8月15日の第10回妙心寺と五山送り火の旅は24人の参加で、お精霊送り、団体参拝、写仏、お写経、匂い袋や手捻りの陶器作りの講習会を涼しい花園会館で涼しい川床ですき焼き、五山の送り火の日は花園会館の屋上で拝めました。阿じろさんの蓮の葉に包まれた蓮ご飯などの精進料理で皆様喜んでました。○9月1日から第9次四国八十八ヶ所巡拝に来てます。○御詠歌は、全国大会が9月末に札幌で開催されるので大会に参加して翌日は観光旅行に。○私が可愛がっている赤い金魚達は餌をあげると藻の上に乗つかって餌を食べています。動画配信したい位です。メダカもいます。○蚊の発生に気を使っています。10円玉をネットに入れて水中に何年か前から入れてあります。最近テレビでも10円玉を入れると銅の鋸で蚊の発生を防げるを行っています。殺虫剤は体に良くないし10円玉を洗えば又、使えると思いまして。○お彼岸会には、おはぎを作つて、きゅうりのぬか漬けも220本、早朝に漬けてお待ちしています。○御詠歌も新曲を入れていますので是非聞いて下さい。○今は、嬉しい事があり、その準備に追われています。○皆様もお体をご自愛下さい。山内同おかげさまで元気です。お元気で。要子

大徳寺の一休禪師の作として伝えられている歌です。亡くなつた人は見えない姿で生きている私たちの胸の中にいるのです。私が喜べば、故人も喜び、私が悲しみれば、故人も悲しむ。生きた人が救わられれば、死んだ人も救われる。「亡くなつた人を、愛して尊敬するならば、私自身を愛して尊敬しなさい。そのことが何よりも大切なことです。私は、間違ひなく彼岸への近道になるはずです。お供物が欲しい」とはいいません。けれども、私たちが自発的に心を込めて、お仏壇のお位牌やお墓、故人の好きだった湯飲み茶碗や盆栽に、亡くなつた方を偲ぶことの大切なのではないでしょうか。そしてこの秋の彼岸会は、その想いを大切に行いたいと考えています。

先日、野沢稻荷神社の大祭をお務めになつた松陰神社の宮司様は、「神様は、何もお祭りをして欲しいとは言もおっしゃらない。おっしゃらんけど、私たちが自発的にお祭りをして、自ら神様にお参りするところが大切」とご挨拶されているのを聞いて、胸にせまるものがありました。

秋分の日は、「国民の祝日にに関する法律」によると、「先祖を敬い、故人を偲ぶ日」として国民の祝日に制定されているとのこと。この秋分の日に執り行う秋の彼岸会は、その想いを大切に行いたいと考えています。

「到彼岸」という生死の河を渡つて到達する理想・悟りの世界をめざすための、この「彼岸」という行事に、ご先祖さまを敬い、亡くなつた方を偲ぶという行為は、間違ひなく彼岸への近道になるはずです。そんな力のみで向こう岸に渡るのは大変なことです。そんな

時に、自分自身を支えてくれるものは何か?やはり亡くなつた方から、教わったことがたくさんあることに気づくはずです。

いま死んだ どこにもいかぬ ここにある
たずねはするな ものは言わぬぞ

大徳寺の一休禪師の作として伝えられている歌です。亡くなつた人は見えない姿で生きている私たちの胸の中にいるのです。私が喜べば、故人も喜び、私が悲しみれば、故人も悲しむ。生きた人が救わられれば、死んだ人も救われる。「亡くなつた人を、愛して尊敬するならば、私自身を愛して尊敬しなさい。そのことが何よりも大切なことです。私は、間違ひなく彼岸への近道になるはずです。お供物が欲しい」とはいいません。けれども、私たちが自発的に心を込めて、お仏壇のお位牌やお墓、故人の好きだった湯飲み茶碗や盆栽に、亡くなつた方を偲ぶことの大切なのではないでしょうか。そしてこの秋の彼岸会になれば、きっと胸の中で喜んでくださるはずです。

龍雲寺の盆踊りも無事に終わり、野沢稻荷神社のお祭りに行つてビンゴをして、御神輿をお寺にお迎えすると、次第に涼しくなってきたように思えます。

先日、野沢稻荷神社の大祭をお務めになつた松陰神社の宮司様は、「神様は、何もお祭りをして欲しいとは言もおっしゃらない。おっしゃらんけど、私たちが自発的にお祭りをして、自ら神様にお参りするところが大切」とご挨拶されているのを聞いて、胸にせまるものがありました。

秋分の日は、「国民の祝日にに関する法律」によると、「先祖を敬い、故人を偲ぶ日」として国民の祝日に制定されています。

「到彼岸」という生死の河を渡つて到達する理想・悟りの世界をめざすための、この「彼岸」という行事に、ご先祖さまを敬い、亡くなつた方を偲ぶという行為は、間違ひなく彼岸への近道になるはずです。そんな

力のみで向こう岸に渡るのは大変なことです。そんな

龍雲寺の盆踊りも無事に終わり、

龍雲寺のお弟子さんの島田大拙君よりの文章です。彼は妙心寺で私の五年後輩の修行僧でしたが、年齢は私と同じ歳になります。超難関校である灘高校を卒業した、英語が堪能な好青年でした。今回、道場からお暇をいただき、一時龍雲寺に帰山いたしました。現在も龍雲寺の弟子として、大本山妙心寺の専門道場で一番修行の長い雲水として頑張っています。

(晋輔)

ごあいさつ

島田 大 拙

皆様、初めまして。龍雲寺学徒、島田大拙と申します。この場をお借りして、私の出家の因縁と現在に到るまでを簡単にお話しさせて頂きたいと思います。

私の実家は、父はサラリーマン、母は専業主婦の一般的な家庭です。私自身はと申しますと、中学入学、高校卒業、一年の浪人を経て無事大学に入学したものの、五年間のモラトリアムを楽しんだ後に中退、在学中にアルバイトとしてお世話をした予備校に何とか就職させて頂くという人生を歩んで参りました。しかしながら、消去法的に選択した道であつたが故に、「この仕事を一生続けても良いのだろうか、自分の生き方に誇りをもてるのか」との大疑問は拭えず、遂に気持ちが爆発。二十六歳のある日、後先考える事なく仕事を辞めました。折しもその日の夜、私が退職した事を知る由もない高校時代の恩師から手紙を頂きました。「お坊さんにならないか」と。ある意味人生に絶望し、生きる指針を見失っていた私にとって、この言葉は正に天からの啓示そのものであり、眼前に光明が差し、世界が広がりました。「はい、お坊さんになります」と即答しました。

それからは無我夢中でした。臨済宗の檀信徒でもあった恩師の勧めで花園

大学に社会人入学し、少しでも多くの仏教、特に禪学の知識を取り入れ、坐禅会にも積極的に参加し、沢山の僧侶の方とお話しさせて頂きました。この間に学び、体験した事は今の私の財産です。さて、二年間の学生生活も終わりを迎え、さあよいよ出家して道場で修行するぞ、と決意したものの、一つ問題がありました。私が在家であることですかねが寺ならば父親等に師匠になつて貰えは良いのですが、私の場合はそうもいきません。途方に暮れている時に助けてくださったのが、私と同じ年に入学し、非常に良く面倒を見て下さった龍雲寺の徒弟でもある僧侶の方でした。彼のおかげで龍雲寺さんにお会いする事が出来、師匠になつて頂きました。そして、遂に念願の出家を果たし、かねてより修行するならここより他はないと決めていた、方丈さん、新命さんと同じ妙心僧堂に掛塔致しました。

道場の修行は、自分が想像していた以上に遙かに辛く、大変厳しいものでした。滝に打たれた方がマシだ、あのまま仕事を続けていた方が良かつた、と何度も掛けそうになりましたが、私が掛塔した時には既に評席(責任者)

であつた新命さんに、時には厳しく、時には面白く励まされ、何とか今迄修行を続けることが出来ています。

妙心僧堂に掛塔して気づけば早八年、今は当時の方丈さんや新命さんとともに評席の立場で自分の修行と共に後輩の指導に携わっております。いつまで僧堂に居られるかはわかりませんが、お坊さんになると心に決めた時に抱いた初発心を忘れる事なく、僧侶として、修行僧として生きる自分に自身と誇りを持てるまでは修行を続けていく所存です。龍雲寺学徒として恥じる事のなき様、專一に努めますので、皆様、今後ともどうぞ宜敷くお願ひ致します。

龍雲寺 能楽入門講座

「山姥からひもとく能の世界」

「洞空しき谷の声、梢に響く山彦の、無聲音を聞く便りとなり、声に響かぬ何もがな」

謡曲「山姥」の一説です。臨済宗の中興の祖・白隱慧鶴禪師の「隻手の声」に大きな影響を与えたといわれる一説です。「両手を叩けばバチン」と音が鳴るが、片手の音の音を聞いてみよ」という禪問答の代表的な一問で、修行僧たちの最初の難問とされているものです。修行僧にとって、この「無聲音」が聞こえるようになると、片目が開き、禪の修行がはじまるというのです。龍雲寺の書生の加藤吉光君の叔父にあたる觀世流能樂師・加藤眞悟先生をお招きして、能樂の世界を体験して頂きます。加藤先生は「能は舞う。踊りとは絶対に言わない。舞は無である」とおっしゃいます。また、「能は詩(歌舞伎は小説)であり、説明が少ない。だからこそ、想像して見ることが大事である。」とのことです。ハコビが歩行禪とおっしゃるよう、「禪」との接点も楽しみです。

当日は、先生に実際に舞つていただく時間も、皆様に体験していただくことも考えております。何と言つても、閑柄和尚(父)の熱意で開催される講座ですので、ぜひ皆さんにもお越しいただければ幸甚です。会費は無料、龍雲寺にて予約を受け付けておりますので、ご連絡お待ち申しあげております。



募集中

詳しく述べるは龍雲寺まで
お早めにお申込み下さい。

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

九月 十四日(月)・十月 十三日(火)
十一月 十七日(火)・十二月二十五日(金)

毎週木曜日二回自主練習

男性・女性どちらでも可
会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具入り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)

毎週日曜日 朝六時半～八時半(六時開門)
会費 無料

※初参加の方は六時四十分より説明があります。

坐禅用のイスもご用意しています。

来られない方は、お写経をお渡しいたしますの

でご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。

イス席もご用意しています。

◆写経会(申込不要)

毎月第二土曜日 一時～四時
(但し、七月、八月はお休み)

納経料は 一巻五〇〇円(龍雲寺に納経)

來られない方は、お写経をお渡しいたしますの

でご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。

イス席もご用意しています。

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

聞修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

A(一五〇×一五〇) 永代使用料一一四万円
B(一五〇×一四〇) 永代使用料一二五万円
ABとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外構工事費を含みます。

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来つて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようになります。

いつもお参りの方がいらしてます。

十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。

全国各地で定例講座をされている安岡定子先生をお招きしての論語の素読教室です。終わってからの遊びも時間も大好評です。

◆龍雲寺てらこや子ども論語塾

全国各地で定例講座をされている安岡定子先生をお招きしての論語の素読教室です。終わってからの遊びも時間も大好評です。

◆龍雲寺ダシマトーケ(法話会)

【日 時】九月二十六日(土)
午後二時半から四時半まで(開場 午後二時)

【講 師】妙心寺塔頭退藏院 松山大耕師

【次 回】十一月七日(土)

【場 所】国泰寺派全生庵 平井正修師

【参 加 費】※要予約(東京禪センター)

申込みは、お名前・お電話番号・人数を明記の上、東京禪センターまでFAXでいただけると助かります。

★東京禪センター TEL○三(五七七九)三八〇〇
FAX○三(五七七九)三八〇一

◆龍雲寺能楽入門講座

【日 時】十月十八日(日)
午後三時から四時半まで

【講 師】加藤真悟先生

【場 所】龍雲寺本堂

【参 加 費】※要予約(東京禪センター)

申込みは、お名前・お電話番号・人数を明記の上、東京禪センターまでFAXでいただけると助かります。

★東京禪センター TEL○三(五七七九)三八〇〇
FAX○三(五七七九)三八〇一

【参 加 費】※要予約(東京禪センター)